



教会短信

2010年10月10日

No. 35

牧師 間淵 善彦

長引く経済不況と円高、いつ晴れるかわからない閉塞感の中で、占いブームが続いています。この先が全く予想がつかないと思える時、占いに人びとは引かれるようです。自分がこれからどのように行動していいかわからないから、占いによって進むべき道を示してもらおうと思うのでしょう。

約二千年前、ローマ帝国に支配されていたイスラエルの人びとは、ローマ皇帝を神として礼拝することや重税のために苦しみあえいでいました。ですから、聖書に約束されていた救い主がこの地上に現われることを心から待ち望んでいたのです。神は人びとが救い主を切実に待ち望んでいる姿を御覧になり、御自分の御子をイエスという人間の姿でこの世に遣わしてくださいました。

ところが、イスラエルの人びとはローマ帝国の支配を打ち破ってくれる強い、政治的、軍事的救い主を待ち望んでいたのです。しかし、神の御心は違っていました。神が救おうとされたのは、イスラエルの人びとの生き方そのもので、人間の持っている罪から解放することでした。人間は自己中心の生き方をすることによって罪を犯すのです。

イスラエルの人びとは、イエスがエルサレムに入場された時、歓呼の声で出迎えたのです。しかしその数日後、イエスが自分たちの期待通りの救い主でないとなると、ローマ総督に向かって「イエスを十字架につけろ」と叫び、十字架につけて殺してしまいました。

人間とは勝手なものです。自分たちの期待や欲望を満たしてくれる人が真の救い主であると思いい、それ以外の救い主はあり得ないと考えます。そのような自己中心の人間のために、イエスは十字架上で「父よ、彼らをお赦してください。自分が（彼らは）何をしているのか知らないのです」（ルカ 23:34）と叫び、自分を十字架につけた人びとのために、神に罪の執り成しの祈りをされました。

占いの結果を信じて行動し、間違った方向に進んでしまったとしたらどうでしょうか。占いがわたしたちの人生の責任を取ってくれるのでしょうか。人間がキリスト信仰を持つということは、心が弱いからではありません。イエスを真の救い主と信じるクリスチャンたちも自己責任で行動します。ただ他の人びとと違うことは、「聖書」を神の言葉と信じ、その教えに従って、より豊かな生きがいのある人生を歩もうと日々努力する者であるということです。あなたも教会でご一緒に聖書を学んでみませんか。きっとこれからの人生が、いままでと全く違う、豊かで目標を持った充実した人生になることでしょう。

私の戦争体験

戦時中は、現代のようにスケジュールに従って生活することはできない。なぜなら警戒警報や空襲警報のサイレンが鳴ると何をしても直ちにやめて防空頭巾をかぶって防空壕に逃げ込まなければならないからである。でも、防空壕も必ずしも安全ではない。爆弾の直撃で全員が死ぬ。また、近くに爆弾が落ちれば爆風によって全員が生き埋めになる。だから、学校から帰るとき、さようならと笑顔で別れてもそれが永遠の別れとなることもある。

B-29爆撃機は編隊を組んで飛んでくる。ゴーという頭から押さえつけるような轟音に包まれて家全体が大きく揺れた。防護団の人たちが私の家の玄関の戸を外して飛び込んできた。ぼう然としている親子三人を見て「ここではない」と叫んで飛び出していった。細い路地一つへだてた私の家の真後ろにある家が直撃を受けたのだ。あとで聞いたことだが、わずか0.8秒の差で私たちは助かったということである。

戦闘機は低空で飛んできて道を歩いている人を狙って機上から銃弾を浴びせる。狙われたらまず助からない。私は埼玉県と東京を結ぶ戸田橋の上を歩いていた時狙われた。もう、死ぬと思った瞬間、なぜか戦闘機は高度を上げ、飛び去って行った。

私は偶然に偶然が重なって生き残った。もしかしたらこれは神様が私を護って下さったのだろうか？ 聖書の詩編91：4に「神は羽をもってあなたを覆い、翼の下にかばってくださる」とある。だが私は米軍の本土上陸に備えて竹槍と戦闘機を配布されたとき、本気で米軍の兵士の胸を突き刺してやろうと考えていた。手錠をかけられた捕虜の米軍の兵士を乗せたトラックが家の前を通る時、心の底から喜んで拍手をした。そのような罪に汚れた私を神様はどうして今日まで生かしてくださっているのか？ 詩編103：10～11に「主は私たちに罪に応じてあしらわれることなく私たちの悪に従って報いられることもない。天が地を超えて高いように慈しみは主を畏れる人を超えて大きい」と書いてある聖句に励まされる。私たちの罪に代るイエス様の十字架上の死がなければ考えられない。

私は、若い世代の方々に、二度とふたたびこのような恐ろしい体験をしてほしくない。戦争は自然災害ではなく、人間の憎しみと欲望が生み出す人罪である。ということをつつも心に留めて欲しい。

『空の空。すべては空』

伝道者の書 1 章 2 節

莫大な財力と権力をもった王が、仕事も遊びも、やりつくした末にたどりついたのが、このことば。うらやましい限りです。その王は魅力的な新しいことが登場しても「結局のところ、もうすべて聞かされていることだ。神を恐れよ。(中略)これが人間にとってすべて」ともコメントしています。贅を尽くした先に空しさがあることは、セレブでなくとも薄々感じられます。お金や地位を積み上げても目標や希望を失っては、きっと満足感はないはず。それでも「一度くらい贅をつくしてみたい」という心情、お察し申し上げます。

(「聖書の品格」いのちのことば社 より引用)

教会バザー

11月7日(日)、午後12時30分—2時30分

今年も、色々と準備いたしております。

おいしいケーキなど召し上がりにおいでください。お待ちいたしております。

チャペルコンサート

11月21日(日)、午後2時—3時30分

出演者

ピアノ(長谷川 綾子)、ソプラノ(東郷 悦子)、
男声合唱団(東京農大、OB、学生)、加藤大喬(音大生)
美しい音楽です。どなたでもお気軽にいらしてください。

